

この街って、どんな街と認識されているのだろうか？

考慮すべき変化要因

どんな葛塚になって欲しいのか？

A

実に住みやすいし、暮らしやすい街だと思っている。

- ・街の位置が絶妙で、地勢も良く自然災害も水害以外は考えにくい。
- ・職場、繁華街、海山などから適度な距離があり、閑静な住宅地である。
- ・JR白新線が利用でき、公共交通機関の利便性は高い。
- ・高速道路ICが近く、高規格道路など道路交通も利便性が高い。
- ・農産物が豊富で安いし、最寄品の買い物も支障なく便利だ。
- ・中心部の文化・集会施設も集中しておりコンパクトになっている。
- ・医療、福祉、介護、育児、教育などの環境に大きな不足は無い。
- ・昔から多くの流入人口を受入れてきた経験があり、様々な文化や人材を受入れ、誰とでも和気藹々で開放的な土地柄と言える。

B

でも、街なかの賑わいがちょっと足りないかなあとも思う。

- ・この街は繁華街でも観光地でもないし、農業中心のベッドタウン？
- ・買回り品の店や洒落た店が少ないので、繁華街を利用する人は多い。
- ・休日を楽しく過ごせるサービス施設が少ないから残念だ。
- ・福島潟のような集客施設もあるけど、街から離れている気がする。
- ・集客施設と街の機能が連動して交流人口を増やし、街の利益を増やそうというような緊密で連動性の高い活動は行われていない。
- ・情報発信が域内に留まっているようで、外には向かっていなかった。
- ・単に「賑わい」と言っているが、本当に足りないと思っているのは、街なかに「ハレの場」という認識ができる場所が欲しいのではないか。

C

この地に対する帰属意識や誇りが、あやふやになっている。

- ・「この地の誇りは？」と問われても、すぐには思い付かない。
- ・寝るためだけに住んでいるので、誇りに思う必要性は感じていない。
- ・この地を選んで住んでいるのに、その判断に自信が持てないままである。
- ・地域の歴史や土地柄を理解しよう、させようとする意志が感じられない。
- ・ここで生まれた子供達は、この地が誇りに思うだろうか？
- ・アメリカ建国よりも早い時期から250年以上も続く「市」がある。
- ・周辺から生活の糧を求めて移り住んできた先人達の「開拓者精神」とも言える独立心の強さはもっと評価されて良いと思われる。
- ・こんなに「熱い祭」があるのに、誇りにするには憚られる。

D

E

この地の自慢づくり

↓
住民の自信づくり

↓
中心地に「ハレの場」づくり

未知の人口減少社会

- ・若年、生産人口の減少
子供と若手が少なくなる
- ・小中学校の統廃合の影響
コミュニティはどうか？
- ・既存の社会資本の有効利用
コンパクトな市街地の再構築

少子化高齢化が進む社会

- ・介護や福祉施設は充分か？
健康な高齢者の住み方は？
- ・団塊の世代の能力や活力を活かすための仕組みが大事。
まだまだ働いてもらう仕組み。
- ・少子化は「結婚」から
まずは結婚適齢期の若者狙い。
- ・ニューファミリーが生活しやすい環境を提供できれば。
保育・教育環境の改善
雇用分野の再検討

国際化の進展があり得る

- ・人口減少・少子高齢化による影響として、生産人口減を国際化で乗り切る可能性。
- ・東港の国際化の進展と共に、自動的に外国人は増える。
- ・外国人と共に生活する態度や受入れるための社会資本の整備、仕組みの検討が不可欠。

地域の自立が望まれる

- ・自分達の地域は自分達で守り、
創意工夫で努力する地域だけしか生き残れない。
- ・街も企業も商店街も同じ。

この街って、どんな街と認識されているのだろうか？

①

実際に住みやすいし、暮らしやすい街だと思っている人は多い。

- ・街の位置が絶妙で、地勢も良く自然災害も水害以外は考えにくい。
- ・職場、繁華街、海山などから適当な距離があり、閑静な住宅地である。
- ・JR白新線が利用でき、公共交通機関の利便性は高い。
- ・高速道路ICが近く、高規格道路など道路交通も利便性が高い。
- ・農産物が豊富で安いし、最寄品の買い物も支障なく便利だ。
- ・中心部の文化・集会施設も集中しておりコンパクトになっている。
- ・医療、福祉、介護、育児、教育などの環境に大きな不足は無い。
- ・昔から多くの流入人口を受入れてきた経験があり、様々な文化や人材を受入れ、誰とでも和気藹々で開放的な土地柄と言える。

②

良さでもあった人間関係が徐々に希薄になってきたようだ。

- ・地域の豊かな人間関係が残っているかどうか？疑わしい地域になりつつあるのは少々残念なことであり、新たな関係を模索すべき時期である。
- ・昔ながらの濃密な人間関係を求めているわけではなく、自治会などの身近な地域社会の価値観を再発見できるような活動が望まれる。
- ・世代毎に関心を高められる方法を探るべきであり、改善する方法論も施設等のハード面だけでなく、仕掛けとも言うべきソフト面についても世代毎のニーズに合った改善提案がなされるべきと思う。
- ・特に若年層については、情報発信機能が重要であると思われる。

③

街なかの賑わいがちょっと足りないかなあとも思っている。

- ・この街は繁華街でも観光地でもないし、農業中心のベッドタウン。
- ・買回り品の店や洒落た店が少ないし、休日を楽しく過ごせるサービス施設が少ないから残念だ。
- ・福島潟のような集客施設もあるけど、街から離れている気がする。
- ・集客施設と街の機能が連動して交流人口を増やし、街の利益を増やそうというような緊密で連動性の高い活動は行われていない。
- ・情報発信が域内に留まっているようで、外には向かっていなかった。
- ・街なかに「ハレの場」という認識ができる場所が欲しいのではないかな。

④

この地に対する帰属意識や誇りが、あやふやになっている。

- ・「この地の誇りは？」と問われても、すぐには思い付かない。
- ・この地を選んで住んでいるのに、その判断に自信が持てないままである。
- ・地域の歴史や土地柄を理解しよう、させようとする意志が感じられない。
- ・ここで生まれた子供達は、この地が誇りに思うだろうか？
- ・アメリカ建国よりも早い時期から250年以上も続く「市」がある。
- ・周辺から生活の糧を求めて移り住んできた先人達の「開拓者精神」とも言える独立心の強さはもっと評価されて良いと思われる。
- ・こんなに「熱い祭」があるのに、誇りにするには憚られる。

考慮すべき変化要因

未知の人口減少社会

- ・若年、生産人口の減少
子供と若手が少なくなる
- ・小中学校の統廃合の影響
コミュニティはどうか？
- ・既存の社会資本の有効利用
コンパクトな市街地の再構築

少子化高齢化が進む社会

- ・介護や福祉施設は充分か？
健康な高齢者の住み方は？
- ・団塊の世代の能力や活力を活かすための仕組みが大事。
まだまだ働いてもらう仕組み。
- ・少子化は「結婚」から
まずは結婚適齢期の若者狙い。
- ・ニューファミリーが生活しやすい環境を提供できれば。
保育・教育環境の改善
雇用分野の再検討

国際化の進展があり得る

- ・人口減少・少子高齢化による影響として、生産人口減を国際化で乗り切る可能性。
- ・東港の国際化の進展と共に、自動的に外国人は増える。
- ・外国人と共に生活する態度や受入れるための社会資本の整備、仕組みの検討が不可欠。

地域の自立が望まれる

- ・自分達の地域は自分達で守り、
創意工夫で努力する地域だけしか生き残れない。
- ・街も企業も商店街も同じ。

どんな葛塚になって欲しいのか？

新潟地域で新たな居住を考える時に、真っ先に選んでもらえる地域になりたい。

- 1 住みやすく、子育てしやすく、生活しやすい街である事を知れ渡らせたい。
※交通の利便性、農産品、災害の少なさ
- 2 様々な世代が生活するに相応しい居住環境を目指す施策が展開されている。
※単身世帯向け、リタイア世代向け
新世帯向け等に対応する住宅政策

開かれていて他からの人々を受入れる土地柄や、適切な人間関係を保ち続けたいと願う人々の願いとも言えるものを守りたい。

- 1 ご近所付き合いの世代間交流を始め、
新たな世代毎の交流の「見える化」。
- 2 特に若年世代、若夫婦世代への働き掛けが不可欠であり、提案できるメニューや「場」を創造し発展させる。

地域住民が「ハレの場」と認識できる拠点があり、そこを中心にした対外的な情報発信が交流人口を増やして賑わいを取り戻したい。

- 1 既存の集客施設、商店街、交通機関など連動性の高い活動が展開されている。
- 2 新たな交流人口増を狙った情報発信がなされ、初めて訪れる来街者が増える。
- 3 街の意図が上手に表現できている街。

この街の成り立ちや歴史、土地柄の特徴を理解し、自信を持って住み続けられ、終の棲家にできる街になる。

- 1 「北区のお宝ものがたり」のように、地域を知る手掛かりを十分に活用する。
- 2 土地柄が集約されるべき「お祭り」には、その土地の価値観が表現されているべきであり、誇りにできる可能性あり。

